

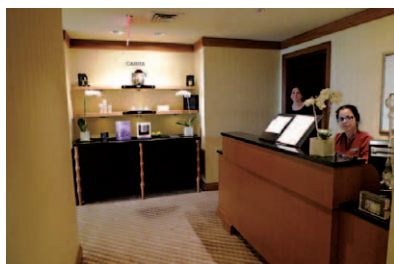
ニューヨーク、マンハッタン島の南端にあるバッテリーパークに観光遊覧船の発着所があり、「自由の女神」が立つリバティ島やエリス島に向かう観光船は世界各国からの観光客でにぎわっている。2002年1月にこの美しい公園に隣接してザ・リッツ・カールトンNY、バッテリーパーク(以下RC/BP)が開業した。

バッテリーパークの名はニューヨークがまだニューアムステルダムと呼ばれていたころ、オランダからの移住者が外敵に備えるために砦として築いた砲台(バッテリー)に由来している。エリス島に移民審査局が建設される前は、ここが最初の移民受け入れセンターであった。各国から船に乗って来た移民者は「自由の女神」を見て「自由の国アメリカ」に入国した訳だ。移民審査局がエリス島に移ってからこの地域は荒廃が進んだが、ワールドトレードセンター(WTC)建設のときに出た膨大な土や岩で再整備が進み、現在の美しいバッテリーパークとなっている。ちなみにWTCは「9・11」で崩壊してしまっただが、ここから歩いて10分で「グランド・ゼロ」に着き、復興の建設現場を見ることができる。

RC/BPの特徴は何と言っても「自由の女神」の眺望であり、ニューヨークで唯一その女神像を望める5ツ星ホテルである。もちろん、客室は「The Statue of Liberty View Room」に限られるが、本誌連載Vol3で紹介したリッツ・カールトン香港にある望遠鏡と同じものが部屋に用意されている。望遠鏡をのぞくとリバティ島に俊立する「自由の女神」の横顔が、大きくはっきりと目に飛び込んで来る。

ニューヨークには二つのリッツ・カールトンがある。もう一つはセントラルパークに面したリッツ・カールトン本来の重厚なたたずまいのホテルだ。一方こちらのRC/BPはロウアーマンハッタン再開発計画の一端として建てられた新築のホテルである。すぐ近くにウォール街があるためビジネスマンの姿も多く、機能的なアーバンスタイルになっている。したがってロビーやラウンジの調度品、客室デザインなどもリッツ・カールトンの重厚感はありません。むしろモダンで軽快感の印象が強い。しかしホテルの実力、評価は非常に高いものがあり、「Institutional Investor」誌の2007年度のランキングで見事トップの評価を獲得し、続く08年度でも5位を維持するなど高評価を得ている。

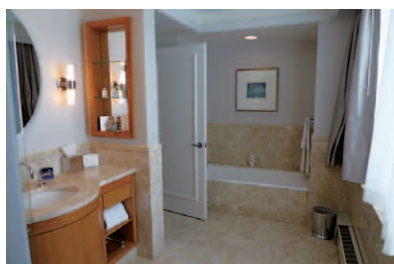
RC/BPは39階建ての「The Ritz-Carlton Residence」と共通の建物にあり、エントランスは左右に分かれている。ホテルは14階建て、40室のスイートを含む全298室のゲストルームを有し、メインダイニング「2 West」、スパ「The Ritz-Carlton Spa」、クラブラウンジ、フィットネスセンター、ビジネスセンターなどの施設を擁している。客室に備えられた望遠鏡から望む「自由の女神」、その姿は実に印象的でありRC/BP流の粋な計らいと随所に感じるホスピタリティーは、このホテルに宿泊したゲストの心をしっかりとらえて離さないであろう。



最上階にあるスパ「The Ritz-Carlton Spa」のエントランス。入り口はやや狭いが左手奥に広大なトレーニングジムがある



モダン・アメリカンビストロを標榜するオールデイダイニングの「2 West」。レストランの名前はホテルの番地から付けられた



変形のコーナールームであるため、ハワイエモバスルームもかなり広い。右手にはシティービューを望む窓がある



11階にあるクラブラウンジの内部。残念ながらシティービューで、ラウンジからはニューヨークハーバーは望めない



「The Statue of Liberty View Room」カテゴリーのコーナールームで、通常の客室より広く約60㎡の面積がある。リッツ・カールトンというよりパークハイアットの雰囲気だ

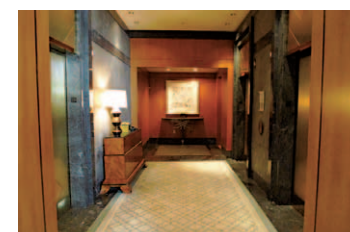
客室に入るとすぐに「自由の女神」が目飛び込んで来る。本誌連載Vol3で紹介した同じ望遠鏡が用意されており、リバティ島に俊立する女神の横顔をしっかりと望める



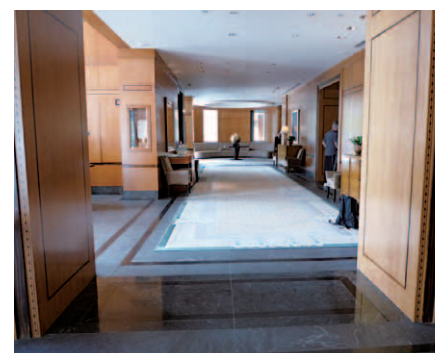
エレベーターホールから直接クラブラウンジに入る。ラウンジ内でのチェックイン・アウトのレセプションサービスはない



1日4回のフード・ビバレッジのプレゼンテーションがある。写真は朝食時のフードディスプレイ



重厚でクラシカルなエレベーターホール。洗練された木目のデザインとライティングが美しい



レセプションを抜けるとホールになり、正面奥にメインダイニング「2 West」、左手にコンシェルジュデスクがある



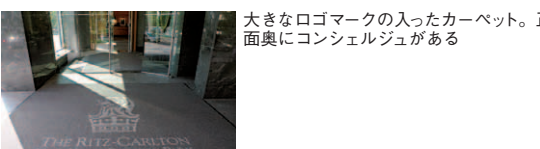
芝生の緑が美しいバッテリーパークに面して建つザ・リッツ・カールトンNY、バッテリーパークの全景。高層の部分がレジデンスとなっている



RC/BPの正面エントランス。ロウアーマンハッタンの主要道「West Street」の南端に位置し、これを真っ直ぐ進むと「グランド・ゼロ」に至る



明るくモダンな雰囲気のレセプションロビー。左手にはコンシェルジュデスクが見える



大きなロゴマークの入ったカーペット。正面奥にコンシェルジュがある

筆者 小原康裕
 ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。
 ※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。ホテルだけでなく、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。
www.jhrca.com/worldhotel